

まわりみち

2024 March no.12



-Contents-

塾長の活算数講座 思考力検定合格者4名誕生

活ママの「教えてください」—算数編—

第3回いきいき寄席（安来市大塚交流センター）

大人が読みふける児童文学⑦ 二年間の休暇



まわりみち

松江算数活塾通信 3月下旬号
2024年3月15日発行 vol.12(毎月2回発行)

発行・編集/松江算数活塾
〒690-0871 松江市東興谷町386-7
TEL 0852-67-8005 <https://katsujuku.net>



中心になるのは年長の三人の少年です。慎重で冷静なゴードン。勇敢で親切、年下に慕われるブリアン。負けず嫌いでブリアンに反発するドニファン。少年たちは時にぶつかり合い、また助け

合いながら、自分たちで規律を作り、島での集団生活を築いていきます。

完訳版はかなり長い話ですが、少年たちの生きるための知恵や工夫が見事で、おもしろく読めます。洞穴を掘り、探検をし、鳥や魚などをとって

料理します。野生の植物から酒や砂糖をこしらえ、アザラシから燃料油をとります。零下三十度にもなる厳しい自然の中で生き抜き、大統領選挙やスケート大会など自分たちで考えを出し、楽しみさえも生み出していくたくましさを目をみはります。

後半はブリアンの弟ジャックの秘密が明かされたり、船が難破した悪い一味が島に上陸してきたりと、話が大きく動きます。ここから少年たちと悪い一味の攻防が始まるのですが、少年たちの知恵と勇気、互いを思う気持ち、希望を捨てない強い意志に感動させられます。題からわかるように、無人島での生活は二年間で終わるのですが、果たして少年たちはどうやって帰国するのでしょうか。最後まで目が離せません。

（『二年間の休暇』ジュール・ベルヌ作 福音館
古典童話シリーズ 高学年から）

児童文学愛好家 天野和子

松江算数活塾ご案内



◀ <https://katsujuku.net>



◀ 算数・落語スケジュール



◀ Instagram

思考力検定合格者四名誕生



当塾は、算数思考力検定合格を一つの目標に掲げていますが、その初年度に4名の合格者が誕生しました。個々の努力はもちろんですが、一人一人の優れた学習姿勢が実を結びました。

算数思考力検定とは、三大検定「英検、漢検、数検」の中にある「実用数学技能検定」とは別につくられたものです。開始時期こそ一九九〇年代の初め頃と、二つの検定は共通していますが、思考力検定の方は、科学的能力の伸長を期して、フィールズ賞を受賞された広中平祐先生の提唱で創設されました。

数検は、合格率5%ともいわれる難関検定で、大学の理系学生でな

いと難しい上、応用問題だけでなく計算技能も問われます。小学生に聞かせる問題は、算数検定（6級〜12級）が設けられていて、これらは、数学検定が下に延びてきたという側面があります。

思考力検定は、小・中学生を対象に創設されました。10級から準2級（高校一年程度）の検定が行われ、高校段階にまでは延びていません。これは、数学オリンピック財団が行っている、高校生対象の「数学オリンピック国内大会」「数学オリンピック国際大会」へのつながりが意図されているからです。

数学オリンピックが意識されている算数思考力検定の問題は、文章

題がほとんどで、かなりの長文も含まれます。問題場面の状況を理解するだけでもむずかしく、慣れが必要になります。一発合格は難しく、今年度、2度目の受検で合格した人は3名でした。結果通知には、同じ合格でも「金」「銀」「銅」の評価が添えられるのですが、全て「金」か「銀」でした。合格余力をしつかりと蓄えた証です。

上位級はさらに難しくなります。でも、「難しい問題こそ楽しい」「初めて見る問題はわくわくする」という心持ちで、間違いや不合格などにくよくよしない挑戦を期待しています。

（塾長 川上宜久）

大人が読みふける児童文学⑦

二年間の休暇



松江市出身の作家、小前亮氏をご存知ですか。昨秋、鳥根県図書館大会において基調講演をされました。子ども時代図書館に通ってたくさん本を読んだ経験を語られ、当時一番好きだった本として挙げられたのが、フランスの作家ヴェルヌのこの本でした。抄訳の『十五年漂流記』（ある訳者がつけたこちらの題の方が有名ですね）を読んだことはありましたが、小前氏推薦の完訳版で改めて読んでみました。なおタイトルは原題通り訳すと『二年間の休暇』となるようです。

時は一八六〇年二月、イギリス領ニュージージーランドのチェアマン寄宿学校。二か月の休暇。一部の生徒たちはスクーター船でニュージージーランドを一周する計画でした。出発前夜、少年たちが船に乗り込み、水夫たちが酒場へ行ってしまった後、何故かとも綱がほどかれ、船は沖へと流されてしまいます。乗っているのは十四歳から八歳の寄宿学校生十四人と黒人の見習水夫モコ、それに犬のファンダケ。やがて嵐にあった船は、帆が飛ばされマストは折れ、波間を漂います。少年たちは必死に船を守り、無人島にたどり着きます。

命は助かったものの、船は壊れているし、自分たちがどこにいるのかさえわかりません。食べるものや住むところはどうか、ここを出て帰ることはできるのか、少年たちの生きるための闘いが始まります。